

事例番号:320186

原因分析報告書要約版

産科医療補償制度
原因分析委員会第五部会

1. 事例の概要

1) 妊産婦等に関する情報

初産婦

2) 今回の妊娠経過

特記事項なし

3) 分娩のための入院時の状況

妊娠 37 週 5 日 子宮筋腫合併妊娠、骨盤位のため帝王切開目的で入院

4) 分娩経過

妊娠 37 週 6 日

10:21 帝王切開により児娩出

5) 新生児期の経過

(1) 在胎週数:37 週 6 日

(2) 出生時体重:2500g 台

(3) 臍帯血ガス分析:pH 7.27、BE -1.1mmol/L

(4) Apgar スコア:生後 1 分 8 点、生後 5 分 9 点

(5) 新生児蘇生:実施なし

(6) 診断等:

生後 6 日 退院

生後 7 ヶ月頃 抱っこをすると反り返るような姿勢

生後 8 ヶ月 まったく寝返りをしない

生後 10 ヶ月 坐位、四つ這い不可、運動発達遅滞、筋緊張低下

(7) 頭部画像所見:

生後 10 ヶ月 頭部 MRI で先天性の脳障害を認めず、脳室拡大・脳梁の軽度菲

薄化と、尾状核・被殻・淡蒼球の萎縮や軽度信号異常を認めるが、いずれも軽度であり非特異的な所見

6) 診療体制等に関する情報

(1) 施設区分: 病院

(2) 関わった医療スタッフの数

医師: 産科医 2 名

看護スタッフ: 助産師 1 名

2. 脳性麻痺発症の原因

妊娠経過、分娩経過、新生児経過に脳性麻痺発症に関与する事象を認めず、脳性麻痺発症の原因は不明である。

3. 臨床経過に関する医学的評価 (2020 年 4 月改定の表現を使用)

1) 妊娠経過

妊娠中の管理は一般的である。

2) 分娩経過

(1) 骨盤位のため帝王切開目的で妊娠 37 週 5 日入院、入院後の管理、および妊娠 37 週 6 日に帝王切開としたことは、いずれも一般的である。

(2) 「原因分析に係る質問事項および回答書」による臍帯動脈血ガス分析を実施したことは一般的である。

3) 新生児経過

出生後の管理は一般的である。

4. 今後の産科医療向上のために検討すべき事項

1) 当該分娩機関における診療行為について検討すべき事項

なし。

2) 当該分娩機関における設備や診療体制について検討すべき事項

なし。

3) わが国における産科医療について検討すべき事項

(1) 学会・職能団体に対して

脳性麻痺発症に関与すると考えられる異常所見を見出すことができない事例を集積し、疫学調査や病態研究等、原因解明につながる研究を推進することが望まれる。

(2) 国・地方自治体に対して

なし。